

平成 24 年度

# 病害虫発生予報第 5 号

平成 24 年 8 月 23 日

## 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

## 目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	12
5. 今月のトピックス（ダイズ紫斑病について）	13
6. 気象のデータ	14
7. おしらせ	16

### 1. 向こう 1 か月の予報と対策

#### 1) 作物

イネでは、斑点米カメムシ類の発生量は多と予想されます。周辺圃場の収穫状況に注意しながら、薬剤散布を行ってください。ツマグロヨコバイ、トビイロウンカの発生量は平年並と予想されます。

ダイズでは、吸実性カメムシ類の発生量はやや多と予想されますので、圃場での発生状況に注意してください。ハスモンヨトウの発生量は平年並と予想されます。

#### 2) 果樹

カンキツでは、黒点病、かいよう病（中晩柑）の発生量はやや多と予想されます。黒点病では後期感染の時期であり、感染源となる枯枝の除去と適期防除に努めてください。かいよう病（中晩柑）では台風の接近等が予想される時は適切に薬剤防除をしてください。かいよう病（温州みかん）の発生量は平年並、ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量はやや少と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量はやや多と予想されます。圃場

への飛来の有無をよく観察し、特にカンキツ、カキでは被害発生に注意してください。

#### 3) 茶

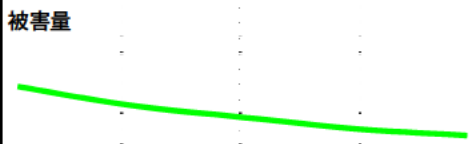
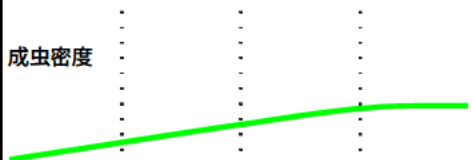
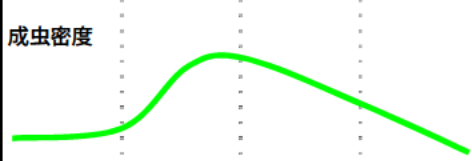
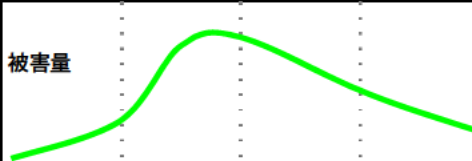
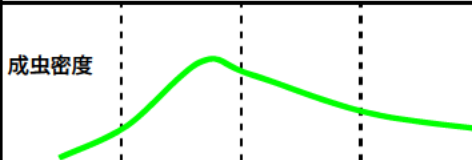
チャでは、炭疽病の発生量はやや多、クワシロカイガラムシの発生時期はやや遅、発生量はやや多と予想されます。炭疽病では、旧葉の病斑が多いところでは新芽 1 葉期に防除してください。クワシロカイガラムシでは、圃場での幼虫孵化状況を確認して防除してください。カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイおよびチャノキイロアザミウマの発生量は平年並、チャノホソガの発生時期はやや遅、発生量はやや少と予想されます。

#### 4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量はやや多と予想されます。薬剤による予防防除と、発病株およびその周辺株の除去を徹底してください。

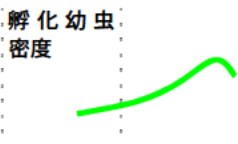

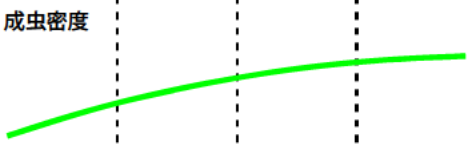
ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量は平年並と予想されます。

## 2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量		要防除 圃場率 平年比	発生消長の一例				防除の注意事項	
			平年比	程度		8月	9月				
						下旬	上旬	中旬	下旬		
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	多	大	高	被害量 					1) 病害虫発生予察注意報第2号(7月24日発表)。 2) 周辺圃場で収穫作業があるときは、侵入に注意してください。 3) 薬剤散布する場合は、周辺圃場の収穫状況を考慮してください。
	ツマグロヨコバイ	—	平年並	大	低	成虫密度 					1) 発生密度が高くないため、防除の必要はありません。
	トビイロウンカ	—	平年並	小	低	成虫密度 					1) 多飛来が確認されていないので、防除の必要はありません。
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	平年並	中	普通	被害量 					1) 圃場を見回り、白変葉を目印として、早期発見に努めてください。 2) 薬剤散布は若齢幼虫期に行ってください。
	吸実性カメムシ類	—	やや多	中	普通	成虫密度 					1) ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシが莢を吸汁加害します。 2) 開花終期から莢伸長期に薬剤散布してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	黒点病	—	やや多	中	普通					1) 乾燥が続くと樹勢の衰弱により枯枝が増加します。感染源となる枯枝の除去に努めてください。 2) 9月は後期感染の時期なので、感染防止に努めてください。
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 やや多	温州 小 中晩柑 中	温州 低 中晩柑 高					1) 発病した夏秋梢や果実等の除去に努めてください。 2) 防風対策を行うとともに、台風の接近が予想される場合は防除をしてください。 3) 高接樹や幼木については、ミカンハモグリガの防除も実施してください。
	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通					1) 秋になって急増することがあるので、発生状況をよく観察してください。 2) 1葉当りの雌成虫寄生数が0.5~1.0頭程度を目安に防除してください。 3) 抵抗性の発達を回避するため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	中	普通					1) この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になり被害が判りにくくなるため、丁寧な観察が必要です。 2) イヌマキ、サンゴジュ等の防風垣に隣接した樹で、被害が多くなることがあります。
果樹共通	カメムシ類	—	やや多	中	普通					1) 病害虫防除技術情報第13号(7月24日発表)。 2) 例年飛来が多く見られる圃場では、圃場内の観察をきめ細かく行ってください。 3) 大雨、強風などの後に、急に圃場へ多数飛来することがあります。カンキツやカキ圃場等の樹園地では、発生状況に十分に注意してください。 4) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると、袋の上から加害されることがあるので注意してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	炭疽病	—	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>防除適期は新芽1葉期です。</li> <li>降雨が続くと発病しやすくなります。降雨の前は予防剤で、発生後は治療剤で防除しましょう。</li> <li>同一系統の薬剤の連用は、耐性菌が出現しやすいので避けましょう。</li> </ol>
	カンザワハダニ	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>秋口に気温が下がると多くなります。</li> <li>薬剤が付着しにくい葉裏に寄生しているので、丁寧に散布しましょう。</li> <li>同一系統の薬剤の連用は、抵抗性が発達するので避けましょう。</li> </ol>
	チャノホソガ (第4世代幼虫)	やや遅	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>新芽開葉初期の孵化直後の幼虫潜葉期（絵描き状態）に防除しましょう。</li> </ol>
	チャノミドリヒメ ヨコバイ	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>晴天が続くと多くなります。</li> <li>萌芽期～新芽生育初期に防除しましょう。</li> <li>集団茶園では一斉防除が効果的です。</li> </ol>
	チャノキイロアザ ミウマ	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>晴天が続くと多くなります。</li> <li>萌芽期～新芽生育初期に防除しましょう。</li> <li>集団茶園では一斉防除が効果的です。</li> </ol>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	クワシロカイガラムシ	やや遅	やや多	中	普通				<ol style="list-style-type: none"> <li>防除適期は北勢地域では9月第4半旬頃です。中南勢地域では、平坦地が9月第4半旬頃、中山間地が9月第6半旬頃となります。</li> <li>圃地の孵化状況を確認して、孵化最盛日の約3日後に防除しましょう。</li> <li>枝に固着しているので噴口を株内に入れて防除しましょう。</li> <li>天敵にやさしい薬剤を選択しましょう。</li> </ol>	
イチゴ	炭疽病	—	やや多	中	普通		<ol style="list-style-type: none"> <li>発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、圃場外に持ち出して適切に処分してください。</li> <li>薬剤による予防防除を徹底してください。葉かき作業後や降雨、台風等の前後は特に重点的に防除してください。</li> <li>耐性菌の発生を防ぐため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。</li> <li>病原菌を含む水滴の跳ね返りによって感染が拡大します。水滴が跳ね返らないよう丁寧に灌水を行ってください。</li> </ol>			
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	平年並	中	普通		<ol style="list-style-type: none"> <li>幼虫は老齢になるに従って薬剤の効果が劣ります。早期発見に努め、若齢のうちに防除してください。</li> <li>同一系統薬剤を連用すると薬剤抵抗性が発達しやすいため、異なる系統の薬剤をローテーション散布してください。</li> </ol>			

### 3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	-	多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯では、クモヘリカメムシ誘殺数(6月第1半旬~8月第3半旬)は、松阪市・畑位置で53頭(5年平均44.0頭)とやや多い傾向、伊賀市で3頭(平年6.4頭)とやや少。ミナミアオカメムシ誘殺数(4月第1半旬~8月第3半旬)は松阪市・畑位置で57頭(昨年288頭、一昨年27頭)と近年誘殺数が増加(+)。</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、圃場すくい取りによる中型種成幼虫の発生圃場率およびすくい取り虫数は、ホソハリカメムシで20.6%(平年19.3%)とやや多、および0.3頭(平年0.4頭)とやや少、クモヘリカメムシで10.6%(平年6.3%)と多、および0.8頭(平年0.2頭)と多、シラホシカメムシ類で4.1%(平年6.5%)と少、および0.05頭(平年1.0頭)と少。また同調査においてミナミアオカメムシ成虫の発生を確認(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~やや多(概してやや多)(+)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査結果、一般圃場の発生状況から、予想発生量は多と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯では、松阪市・畑位置(5月第1半旬~8月第1半旬)で16299頭(4年平均4021.8頭)と多い傾向、伊賀市(5月第1半旬~8月第3半旬)で393頭(平年422.4頭)と平年並(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率32.5%(平年33.1%)と平年並、払い落とし成虫数0.6頭(平年1.6頭)と少、同幼虫数2.2頭(平年7.9頭)と少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無~やや多(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査結果、一般圃場の発生状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	トビイロウンカ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(5月第1半旬~8月第3半旬)では、松阪市で0頭(平年3.1頭)、伊賀市で0頭(平年0.3頭)と平年並に少ない傾向(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率0%(平年0.6%)と平年並に少ない傾向、払い落とし成虫数0頭(平年0.5頭)と平年並に少ない傾向(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無~平年並(概して平年並)(±)</p> <p>4) 九州地域では、普通期水稻での発生状況から、一部の県で注意報を発表(+)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査結果、一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>



作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ダイズ	ハスモンヨトウ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)では、平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並か高い予想 (+)</p> <p>2) フェロモントラップ(7月第4半旬~8月第3半旬)では、誘殺数は菰野町で358頭(6年平均803.2頭)と少ない傾向、津市で313頭(5年平均451.4頭)と少ない傾向、松阪市で259頭(平年407.0頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、葉食害度0.1(6年平均0.08)と平年並の傾向、1a当り白変か所数0.2か所(平年0.9か所)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は無~少(概して少)。一部地域では、圃場での発生を確認 (±)</p> <p>考察: 今後の気象条件、フェロモントラップ、巡回調査結果、一般圃場の発生状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	吸実性カメムシ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(4月第1半旬~8月第3半旬)では、アオクサカメムシ14頭(平年373.4頭)と少、イチモンジカメムシ56頭(平年56.6頭)と平年並、ミナミアオカメムシ57頭(昨年288頭、一昨年27頭)と近年誘殺数が増加 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、25株当り寄生虫数0.04頭(平年0.08頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 水稻巡回調査圃場(8月第2週)では、圃場内でミナミアオカメムシ成虫の発生を確認 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は無~やや多(概して少)。6月下旬播種の圃場ではホソヘリカメムシおよびイチモンジカメムシの発生を確認 (±)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査結果、一般圃場での発生状況から、予想発生量はやや多と考えます。</p>
カンキツ	黒点病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(8月中旬、無防除)では、果実発病度57.4(平年50.4)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、果実発病度5.4(平年3.4)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>5) 感染源となる枯枝の発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と思われる、感染源となる枯枝の状況を考慮して、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	かいよう病	-	温州 平年並  中晩柑 やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報 (8月17日発表) によると、平年と同様に晴れの日が多く(±)、期間の前半の気温は低くない(-)予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃 (8月中旬、新甘夏、無防除) では、発病葉率 3.2% (平年 12.6%) と少、発病果率 30.8% (平年 38.0%) とやや少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場 (8月第2週) のうち、温州みかんでは春葉発病度 0.1 (平年 0.1、ただし8か年は0) とやや多、果実発病度 0.04 (平年 0.3、ただし9か年は0) とやや多 (+)</p> <p>4) 巡回調査圃場 (8月第2週) のうち、中晩柑では春葉発病度 2.0 (平年 2.0) と平年並、果実発病度 3.4 (平年 2.6) とやや多 (+)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多 (概してやや多) (+)</p> <p>考察：温州みかんでは、現状の発生量はやや多と思われるが、本病に対する耐性が高いことから今後は終息に向かうと考えられ、予想発生量は平年並と考えます。中晩柑では、現状の発生量はやや多と思われ、気象要因を考慮しても、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	ミカンハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報 (8月17日発表) によると、平年と同様に晴れの日が多く(±)、気温は低くない(-)予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃 (8月中旬) では、100 葉当り寄生頭数は無防除区 3.3 頭 (平年 27.7 頭) と少、慣行防除区 3.3 頭 (平年 102.7 頭) と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場 (8月第2週) では、発生圃場率 61.5% (平年 31.5%) と多、新葉における寄生葉率 2.3% (平年 6.0%) と少、寄生頭数 0.04 頭/葉 (平年 0.27 頭/葉) とやや少 (-)</p> <p>4) 広域防除員による調査では、一部で多発圃場を確認 (+)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量はやや少～やや多 (概して平年並) (±)</p> <p>考察：現状の発生量は圃場によるばらつきがありますが概してやや少と思われ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃黄色粘着トラップ (8月1日～10日) では、誘殺数 4.9 頭 (平年 9.3 頭) と少 (-)</p> <p>2) 県予察圃 (8月中旬) では、100 果当り寄生虫数 0 頭 (平年 20.3 頭) と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場 (8月第2週) では、被害果率 1.2% (平年 2.1%) とやや少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少～平年並 (概してやや少) (-)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と思われ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>



作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹共通	カメムシ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:8月1日~10日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数 857 頭(平年 585 頭)とやや多 (+)</p> <p>2) 予察灯(松阪市:7月21日~8月20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 1,506 頭(平年 535 頭)と多、ツヤアオカメムシ 216 頭(平年 65 頭)と多、クサギカメムシ 179 頭(平年 161 頭)と平年並 (+)</p> <p>3) フェロモントラップ(7月9日~8月8日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)で 1,666 頭(平年 1,442 頭)と平年並、中間地(津市白山町二本木)で 4,208 頭(平年 2,635 頭)と多、平坦地(松阪市嬉野川北町)で 547 頭(平年 610 頭)と平年並 (+)</p> <p>4) 巡回調査圃場(8月第2週)では、ナシ(無袋栽培)での被害果率 8.7%(7年平均 0.3%)と多の傾向、カキでの被害果率 5.0%(平年 0.1%)と多、ブドウ圃場への成虫飛来を確認 (+)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 予察灯および巡回調査結果を重視して、現状の発生量は多と思われますが、今後は一旦発生量が減少する時期であり、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	炭疽病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、新葉発病葉数 0.4 枚/m<sup>2</sup>(平年 0.9 枚/m<sup>2</sup>)と少、旧葉発病葉数 1.1 枚/m<sup>2</sup>(前年 0.4 枚/m<sup>2</sup>)と多の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 巡回調査結果のうち発生源となる旧葉での発病状況および一般圃場の発生状況を重視して、現状の発生量はやや多と思われ、大きな増減要因はないので、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多く、気温は低い予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(8月上旬)では、寄生葉率 5.5%(平年 4.7%)とやや多、寄生頭数 0.08 頭/葉(平年 0.18 頭/葉)と少 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、寄生葉率 1.9%(平年 1.2%)と多、寄生頭数 0.03 頭/枚(平年 0.06 頭/枚)とやや少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察: 県予察圃および巡回調査結果を重視して、現状の発生量は平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノホソガ (第4世代幼虫)	やや遅	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃における第2世代成虫発生ピークは7月第4半旬(平年7月第3半旬)とやや遅 (発生時期+)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(7月第5半旬~8月第4半旬)では、誘殺数640頭(平年2,429頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では巻葉数0.3枚/m<sup>2</sup>(平年3.2枚/m<sup>2</sup>)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察: 第2世代成虫発生ピークから、第4世代幼虫の発生時期はやや遅と考えます。現状の発生量は少と思われるが、今後増加が見込まれる時期のため、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメ ヨコバイ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(7月第5半旬~8月第4半旬)では、捕殺数9頭(平年19.4頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、たたき落とし虫数1.1頭(平年0.9頭)とやや多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザ ミウマ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(7月第5半旬~8月第4半旬)では、捕殺数3,095頭(平年6,323頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、たたき落とし虫数11.2頭(平年7.0頭)とやや多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	クワシロカイガラ ムシ	やや遅	やや多	<p>要因</p> <p>1) 有効積算温度による発生活長予測式では、亀山市における第3世代幼虫孵化最盛日は9月18日(平年9月13日)とやや遅 (発生時期+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率87%(平年59%)と多(+)、雄繭寄生株率5.6%(7年平均5.6%)と平年並の傾向(±)、雌成虫寄生株率10.8%(平年6.8%)と多(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 発生活長予測結果から、第3世代幼虫の予想発生時期はやや遅と考えます。巡回調査結果を重視して、現状の発生量はやや多と思われ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	炭疽病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週、苗床)では、発病株率0.2%(平年0.9%)と少であるが、一部圃場では発病株を処分済み (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(昨年11月第2週、本圃)では、発病株率1.8%(平年0.2%)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と思われませんが、昨年の状況を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
ネギ	シロイチモジヨトウ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) フェロモントラップ(松阪市・7月第4半旬~8月第3半旬)では、成虫誘殺数5頭(平年44.2頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、被害葉率0.4%(平年1.6%)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~やや少(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と思われませんが、今後は発生量が増加する時期であり、予想発生量は平年並と考えます。</p>

## 4. 予察項目の見方

### 1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていれればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因

## 5. 今月のトピックス 「ダイズ紫斑病について」

### ◆被害の様子と三重県内での発生状況◆

本病は、ダイズの葉、莖、莢、種子の各部位に発病する病害です。特に種子での発病は、紫色の斑紋がへそを中心に発生し（紫斑粒・図1）、外観品質を低下させる要因となります。三重県内では、種子更新や種子消毒が徹底されたため、近年の多発は見られませんが、ダイズの重要病害です。



図1 ダイズ紫斑病による被害粒の発生（紫斑粒）

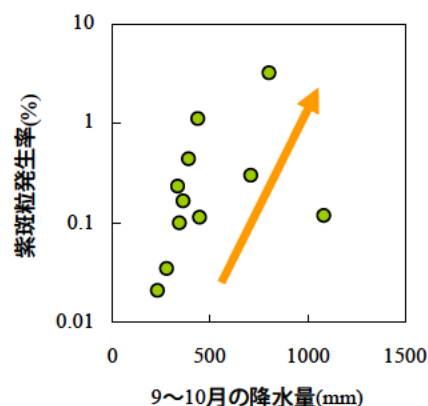


図2 9~10月の降水量（津アメダス）と紫斑粒発生率との関係（2000年～2011年。巡回調査結果）

### ◆伝染経路と発病条件◆

病原菌は罹病種子で生存しており、罹病種子を播くと、子葉を侵して病斑をつくります。病斑上に作られた胞子が飛散して拡がり、伝染源となります。また、前年度の罹病残渣も伝染源となります。

子実の発病は成熟期の降雨によって助長されます。

三重県では9月から10月の降水量が多い年に、紫斑粒の発生が多い傾向があります（図2）。

表1 ダイズ紫斑病の要防除時期

月・旬	ダイズの生育ステージ	紫斑病の要防除時期
8月中～下旬	開花期	● 開花後、莢が付き始めた時期から10日おきに、2～3回行いましょう。 ● 子実肥大期・後期までに確実に防除しましょう。
8月下旬	結莢始め	
9月上旬～中旬	莢伸長期	● 収穫は適期に行い、収穫物は速やかに乾燥調製しましょう。
9月下旬	子実肥大期・前期	
10月上旬	子実肥大期・後期	
11月中旬	成熟期	

### ◆防除のポイント◆

- 1) 耐病性品種を使用しましょう。フクユタカ、オオツル、タマホマレの抵抗性は中程度です。
- 2) 種子更新によって健全種子を使用し、種子消毒を行いましょう。
- 3) 圃場での薬剤散布は、開花後に莢が付き始めた時期（結莢始め）から10日おきに、2～3回行いましょう（表1）。
- 4) 耐性菌の発生を防ぐため、同一薬剤および同一系統薬剤の連用を避けましょう。三重県では、チオファネートメチル水和剤に対する耐性菌の発生が確認されており（平成13～14年・三重県農業研究所）、注意が必要です。
- 5) 収穫は適期に行い、収穫物は速やかに乾燥調製しましょう。収穫が遅れたり、収穫物を長く野外に放置したりすると多発することがあります（表1）。

## 6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 24 年 8 月 17 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多いでしょう。8 月を中心に残暑が厳しい見込みです。

1 週目 8 月 18 日～ 24 日	期間の中頃は高気圧に覆われて概ね晴れますが、期間のはじめと終わりは、上空の寒気や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、雨の降るところがあるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.0 日・4.6 日
2 週目 8 月 25 日～ 31 日	太平洋高気圧に覆われて、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	同 1.9 日・4.5 日
3～4 週目 9 月 1 日～ 14 日	低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるでしょう。	同 4.6 日・8.1 日

東海地方週間天気予報 (平成 24 年 8 月 22 日 10 時 30 分 名古屋地方気象台発表)

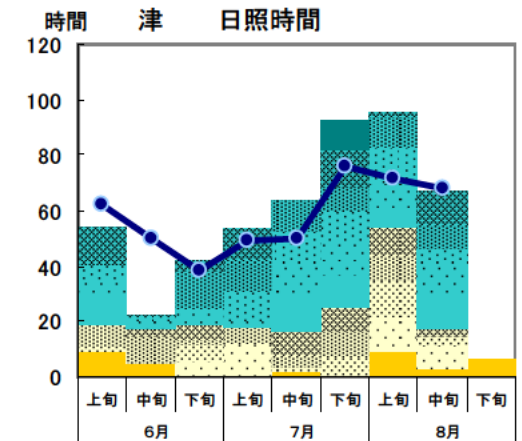
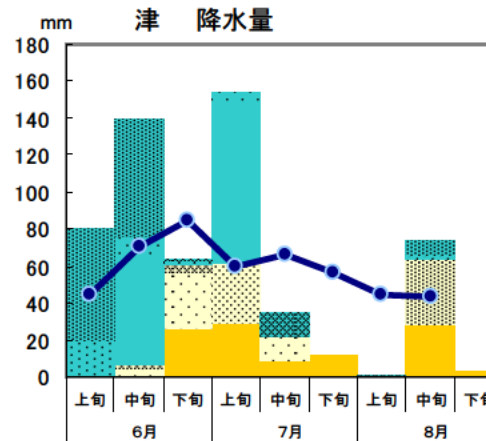
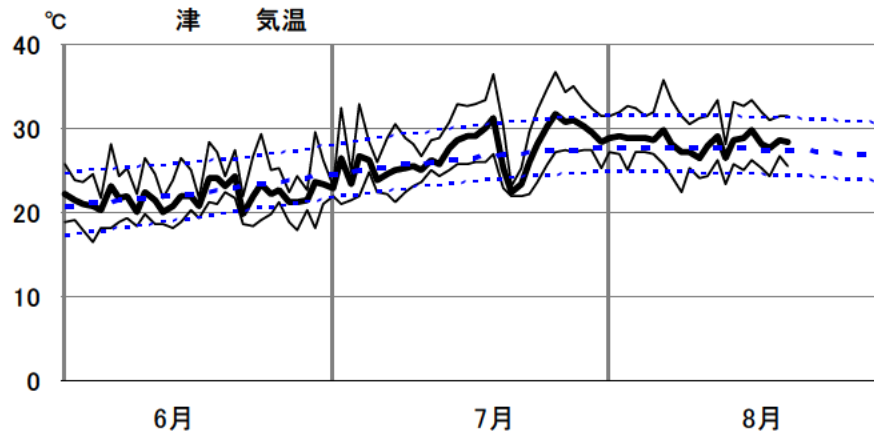
予報期間 8 月 23 日～8 月 29 日

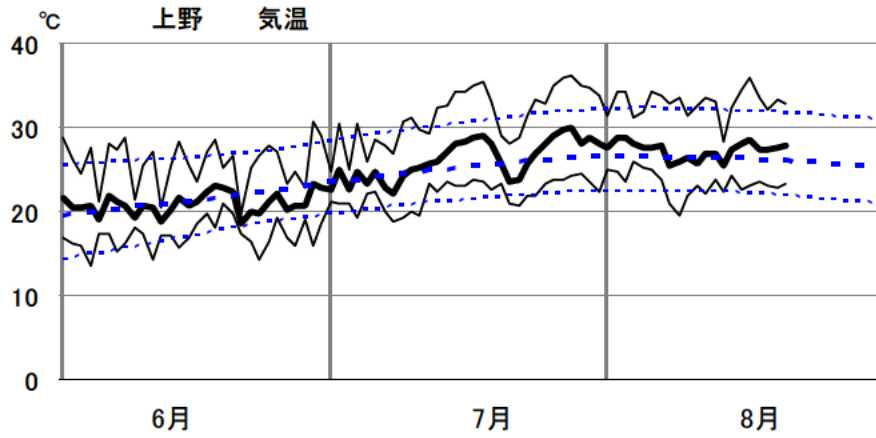
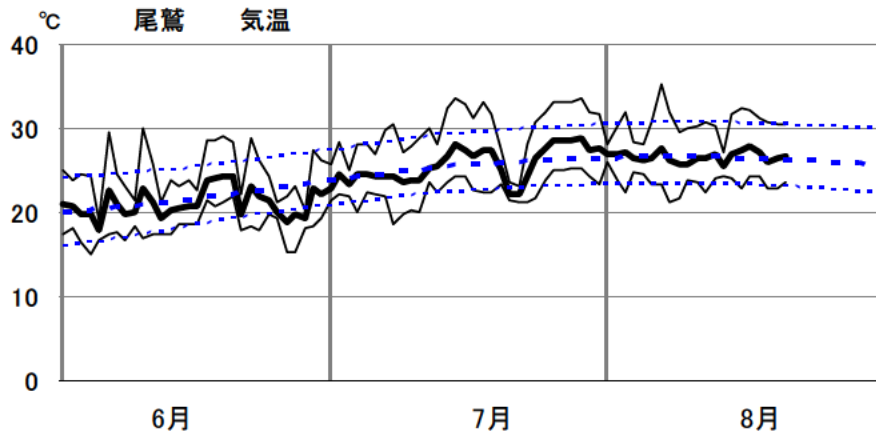
向こう一週間は、高気圧に覆われて概ね晴れるでしょう。

最高気温と最低気温はともに、平年並か平年より高い見込みです。熱中症など健康管理に注意してください。

降水量は平年より少ないでしょう。

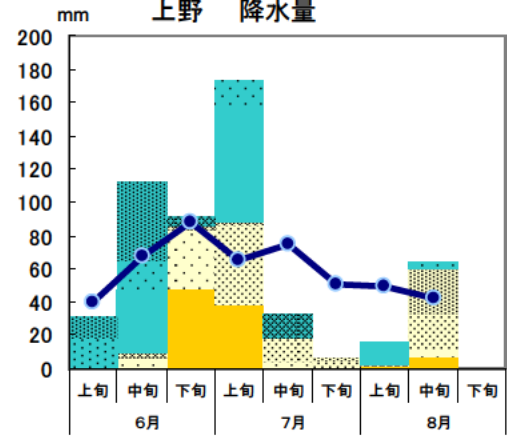
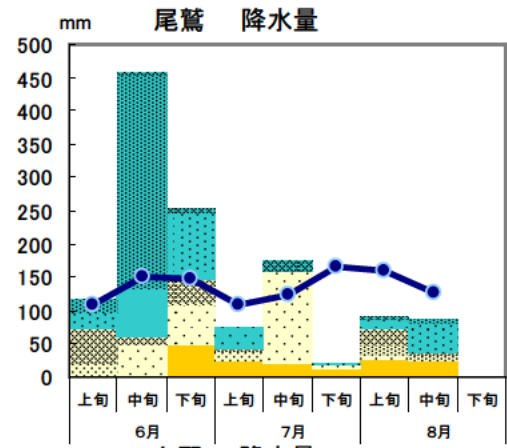
気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etm/index.php> から作成) (8 月 21 日まで)





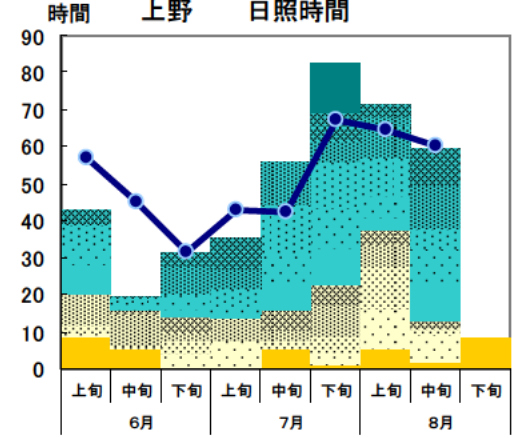
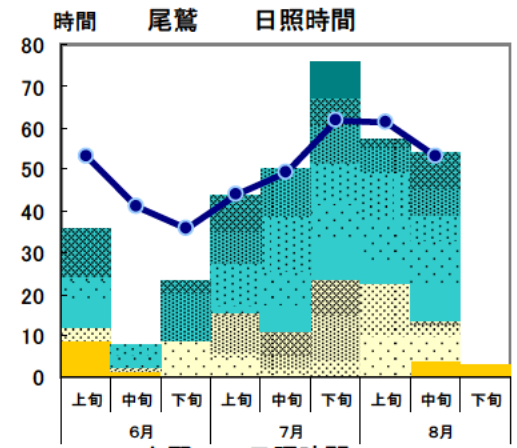
凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 平年平均
- ..... 平年最高
- ..... 平年最低



凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値



凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値



## 7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

### 1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

### 2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- 第1回 4月26日(済み) 第2回 5月24日(済み)
- 第3回 6月21日(済み) 第4回 7月19日(済み)
- 第5回 8月23日(今回) 第6回 10月25日(木)
- 第7回 3月22日(金)

### 3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

### 4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

[http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h24yohotebiki\\_.pdf](http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h24yohotebiki_.pdf)

### 5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

### 6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)